

『できること』を活かした  
 自立支援だから  
 活動の幅が広くなりました

理事長

武内 美佳さん

NPO 法人 愛ランド

Case 06

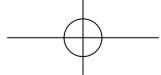
パソコン指導やIT・印刷業務を行うパソコン室。デザインの得意なメンバーはチラシやポスターも作る。

OPENして一年  
 地元の交流サロン  
 手作りパン&カフェ 『たつの庵』

JR姫新線の本竜野駅を下りて西へ、古い街並の残る龍野町に『NPO法人愛ランド』の障がい者就労訓練所2号店『たつの庵』がある。古い町家をほぼそのまま利用したというカフェ&パン&福祉の店だ。新宮町にある愛ランドのパン工房から毎日焼きたてのパンとケーキが配達されている。OPENして一年が過ぎ、近所の人たちが焼きたてパンを楽しむに買いにきてくれるようになった。その中には、百歳のご夫婦もいるそうだ。

「ここにはガスはないんです。地域の皆さんに迷惑はかけられませんから」理事長の武内さんはいう。そのためカフェには食事メニューはないが、全ての飲み物に手作りのパウンドケーキが付き、ケーキセットや抹茶セット、新たに白玉ぜんざいも新メニューに入り常連客も少しずつ増えているそうだ。「爪楊枝、持って帰って下さい」接客してくれた女性がはにかみながら声をかけてくれた。折り紙で作られた楊枝袋はその女性の手作りだという。

「この子はこういうことが得意なんです



2011年 県のスイーツ甲子園で準グランプリを受賞した竹炭クッキー『クロッキー』



よ」武内さんは優しい笑顔で教えてくれた。愛ランドの基本はそういう「得意なことを活かす」ことにあった。

## 『できること』を活かして 何ができるか考えよう そして仕事を見つけよう

『NPO法人愛ランド』は障がい者の自立と社会参加の支援を目的に設立された就労継続支援事業所だ。拠点となる『愛ランド交流サロン』は新宮町にあり、併設されたパン工房で毎日焼かれる手作りパンの販売と喫茶業務を行っている。だがそれは業務内容のほんの一部に過ぎない。就労のためのIT支援にはじまり、パソコン関連の印刷・データ部門、パン工房や喫茶などの手作り・農業部門などがあり、各部門の中でも書類の電子化や映像制作、手作り雑貨販売などなど…さらに細かく分かれていてここでは書ききれないほどだ。



愛ランドのパンは、ささ宮農・いねいぶる・赤とんぼプラザ・めぐみの郷などでも購入できる。

「何かしたいと言ってきた人にはできる限り要望に応えられるように検討します。そしてその人ができることを活かした仕事を見つけます」武内さんは仕事に人を当てはめるのではなく、その人ができることを活かせる仕事を見つけてその部門を作ってしまう。だから業務内容がどんどん増えていく。経営者という立場で考えると大変だが、できるのにそのままにしておくのもったいないからと笑う。

## 家族に障がい者を持つ自分

### 私にできることは？

## ワープロ教室からNPO設立へ

『愛ランド』のはじまりは結婚退職後OL時代のキャリアを活かして自宅でパソコン教室（当時はワープロが主流でパソコンもDOSの時代）を始めた武内さんに地域の障がい団体支援者が持ちかけたひと言だった。

「障がい者に教えてくれないか」

生まれつき重度の障がいを持つ弟がいた武内さんは自分がやるべきことなのかもしれないと直感したという。それが新宮町

右) 作業工場では様々な仕事を行っている。  
中央) パン工房ではパンが続きと出来上がる。焼きたてパンは隣の交流サロンやたつの庵で食べることも増えている。  
左) 愛ランドを支えるスタッフの皆さん。

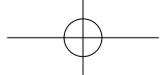


総合福祉会館での平成十年度委託事業『障がい者パソコン教室』だった。負担を軽くするためワープロを持ち寄りスタートしたが、機種や実力もバラバラな受講生たちの指導や運営を一人で行うのは思った以上に大変だった。武内さんは教室生に声をかけ、手伝ってもらいながら続けることにする。在宅でもIT業務を受注していた武内さんはその仕事を教室生に発注することもあった。体が不自由でも在宅でならメールやFAXでやり取りができる。スキルアップできて報酬もあるなら教室に通いたいという人たちが増えていく。そんな中にある女性がいた。

自宅から教室まで播但線と姫新線を乗り継ぎ、駅からはタクシーで通って来る。月謝に加えてかなりの交通費をかけて来てくれる。武内さんは何度も聞いたそうだ。

「そこまでして通う必要があるの？」  
資格を取りたい、在宅ワークをしたい、その一心なのだが不自由な体では合格ラインまでなかなか届かない。

「私はこのままこの人を教えていて良いのだろうか？」自問自答を繰り返した。従来から来てくれている一般の教室生と障がい者の両方に申し訳ないという思いが膨らんでいった。その頃から姫路方面にもNP



愛ランド2号店『たつの庵』は古い町家を利用した落ち着いた雰囲気。和室と洋間があり懐かしい和小物の飾りがステキだ。明るい縁側が人気席だそう。



〇法人ができ、経理経験がある武内さんは近隣のNPO設立に関わる機会も増えた。自分のしていることはNPOなら続けられるのではないかと武内さんは考え始める。そして平成十六年『NPO法人愛ランド』を立ち上げ、従来の一般の教室は今まで通り有限会社で経営することにした。自分の中で切り分けて活動することで気持ちの整理もついたそう。

## 手作りパン製造販売と 交流サロンOPEN 次の時代へと引き継ぐために

愛ランドの中心事業のひとつとなった手作りパンの製造販売。最初は家庭用のオーブンで焼いていたそう。それもやはりパンを焼くのが得意な関係者がいたからと武

のれんの向こうがパン販売コーナー。左奥がカフェへの入り口だ。



内さんは笑う。  
平成二十年度のコミュニティ・ビジネス助成金で業務用オーブンを購入したことで大量製造が可能になり、委託販売や大量発注にも対応、車での配達も行えるようになった。パン工房を開設できたのは二十一年度日本財団から助成金が下りたからだろう。だが助成金の範囲で収まらない設備投資には自分の資産を担保に銀行で融資を受けているという。なぜなのか？  
「障がい者の命、そして人生を預かる仕事。自分の代で終わらせる訳にはいきません。それが誰かは分からないけれど引き継ぐ者に負担をかけたくない」NPOというより企業のトップの考え方のよう。

団体名 NPO法人 愛ランド  
代表者 武内 美佳  
事業分野 福祉活動・まちづくり  
事業内容 パンの製造販売・交流喫茶・サロン・印刷請負・ITサポート・パソコン教室・解体作業  
設立 平成16年5月  
所在地 たつの市新宮町中野庄80  
電話 0791-76-2686  
HPなど <http://www.paso-school.jp/island/>

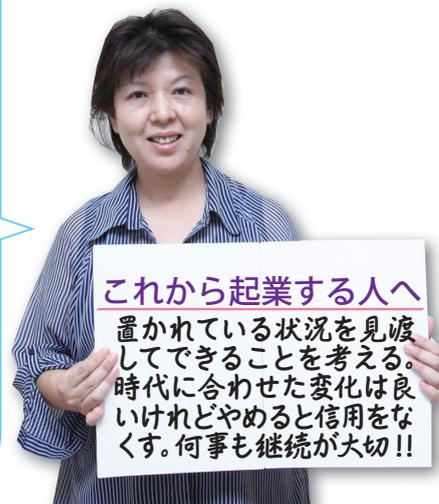
営業日時 (月)～(金) 9:00～17:00



明るくイキイキと仕事をしている愛ランドのメンバー。

一昨年『たつの庵』より一足早くパン工房からすぐの場所に体育館ほどの広さの作業工場を購入した。機械部品の解体など障がいを持つ人たちがそれぞれできる作業を行っている。二階にはロビーや個室があり、キッチンやお風呂まで付いていて多目的に使える。趣味の教室などに使っても良かったり、地域の高齢者が集えるような場所づくりができたならと教えてくれた。  
武内さんの頭の中ではもう次の夢が膨らみ、それに向かって進んでいるようだ。

私は時代に合わせてワープロからパソコンへと移行しました。パソコンができるから印刷もできる、というようにいろいろな形で幅が広がっていきました。継続してできることを考えていくことが一番大切です。自分一人ではできなくても、自分の周りを見渡すと手伝ってくれたり協力してくれる人はいます。それは大きな力です。それを上手く自分の事業に取り入れて皆に利益があるようにすると続けられるのではないかと思います。



これから起業する人へ  
置かれている状況を見渡してできることを考える。  
時代に合わせた変化は良いけれどやめると信用をなくす。何事も継続が大切!!